

『刑法総論』

(学部生・20代・T.K)

ロースクール入学にあたり、刑法総論をコンパクトに復習するための書籍として適切であると思い、本書に注目した。ひとまず通読したが、ともすると学説の深みにはまってしまいがちな刑法総論の内容について「定義とその解説」→「成立要件とその解説」→「判例解説・CASE への当てはめ」という形式で整然と記述がなされており、非常に読みやすい構成となっていた。また、学説についても適度に記述されており、それらについてもただその内容を解説するにとどまらず、その結果事例についての帰結までしっかりと書かれていることから、判例と異なる立場を採用しようと考えた場合にも所謂「当てはめ」への方針が立つ。「CASE」がある部分に関して実際に当てはめて解説と照らし合わせることで初歩的な事例問題の演習も可能であり、本誌 463 号から連載中の「刑法事例の歩き方——判例を地図に」や本誌「演習」へのステップにも適していると考ええる。刑法各論の刊行が実に待ち望まれる、そんな 1 冊であった。

『法学教室』2020年3月号(No.474)掲載「Reader's Voice」より